

旧庁舎跡地活用に関する説明会要旨

平成 23 年 5 月 19 日（木） 14:00 神田公園区民館 4 階洋室 A

区説明者：歌川部長・松本参事・島崎部長・清古部長・古田副参事

出席者 21 名

質疑応答等

○今必要な施設は高齢者総合サポートセンターではなく、入所できる（特別養護）老人ホームである。入所待機は何人いるのか？

→・4 月末時点で 200 名程度の入所申し込みがある。

○待機者 200 名は非常に多い。かなりの人が老人ホームをほしがっていると思う。一番必要なのは老人ホームだと思う。

○保健所麹町庁舎にあった通所リハビリの施設はよかった。なくなってしまったのはもったいない。

→・規模は小さくなったが、いまは新しい保健所で継続して実施している。区が介護保険以外のことを単独で行うのは難しい。今回の計画で 30 人 40 人を受け入れられる、安定した公共サービスが提供できるという意味でトータルとしてサービスのレベルは上がると理解していただきたい。

○国家公務員共済組合が運営するということだが、区の意見、区民の声はどのくらい反映されるのか、今から考えておく必要がある。熟慮した方がいい。

→・基本協定、運営協定を結ぶ中で事業の実施を担保していく。医療・介護の部分は法律にのっとって実施することを求めるし、それ以外の地域医療貢献などについても評価委員会を設けて定期的にチェックしていく。

○区と病院の面積比が 1 対 4 だが、高齢者総合サポートセンター機能が 100% 満たされるのか？

→・割合で見ると病院がほとんどように見えるが、高齢者総合サポートセンターの 5 つの機能は 5000 m²の中で担保し、高齢者センター機能も拡張できる。

○老人をステイさせる病院がほしい。神田は商売している人が多い。親の面倒を見るために長時間かけて泊まりがけで遠方の病院へ行くのは困難である。

→・九段坂病院の入院病棟が使えるので 24 時間 365 日の相談体制を組んで受け入れ可能であれば受け入れ、受け入れできない場合は他の病院へつなぐなどネットワークを作る中で対応していきたい。

○病院から「満杯です」と言われるとどうしようもない。このままでは九段坂病院のペースになってしまうと思う。

→・リスクは認識している。入院できる場所の確保について、協定の中で担保し確保していく。

○われわれは運営状況をどこで見ることができるのか。運営委員会に区民代表を入れるなど区民にプロセスが分かるような方法を取れるのか。これから先のことが見える形で進めてもらえればわれわれも安心できる。

→・評価の内容については公表していく。

○委員会はオープンでやった方がいい。

→・今後協議をして協定を結ぶ中で盛り込んでいきたい。

○協議の結果など、いつわかるのか

→・これから協定を詰めていく段階。ある程度まとまったところで示していくことになる。

・九段坂病院主体になるのではないかと、区の見解が反映されないのではないかと、そういうことにならないように協議をしている。運営にかかわることなので、基本協定の段階でははっきりしない。基本協定を結べばその内容についてお知らせする。運営については基本協定締結以降、議論していくし、どういう議論をしているのか問合せがあったときに対応できるようにしていく。区が今できること、今ある資源の中で最善なものを提供できるための仕組みを作るために高齢者サポートセンターを整備していくものである。

○協議の経過を含めて情報をオープンにするように区が努力しているように見えてこない。最初からオープンにするべき。3.11以降人々の意識も変わっている。

○今までの説明会の意見・質問を踏まえて、今回の資料は非常に事細かに親切に対応してくれていると思う。情報が出た出ないはいつでも突然に聞こえるようなもの。3.11以降世の中の見方は変わったと思うがなかでも医療、高齢者、弱者対策は早急に整備しなければいけないと思う。いまの説明に感銘を受けたし応援していきたいと思った。

○前回の説明会から状況が変わったこととして九段会館の閉館がある。国同士の土地であるのだから九段会館に九段坂病院を建てたらどうか。旧庁舎をサポートセンターにすれば高齢者住宅も検討できるのではないかと。九段会館が歴史的な価値のある建物であるなら今の九段坂病院の場所に持っていけばいい。区から申し入れしてはどうか。

→・区にとっては、人様（国）の土地建物である。今後どうなるか具体的な動きがはっきりしないなか、引きずられてサポートセンターの建設が遅れることは避けたいと考えている。今回の計画については旧庁舎跡地を使って整備していきたい。ただ、今までと状況が変わり、九段会館の土地建物の利用について動きが具体的になる中では景観、歴史文化の面からも周辺と協調性を持って進めていきたい。

○九段坂病院のスタッフの対応はすばらしい。ホテル感覚のホスピタリティある病院である。九段会館から千代田会館までを一体的に開発すればいい。弱者対応だけでなく、千代田会館には健常者向けの整備をしてほしい。一体開発の上で老健施設を作ってもいいのではないか。九段会館には大ホール、コンサートホール、資料館、ホテル、スーパーを望みたい。いっぺんにやるのは無理だろうから九段坂病院、高齢者サポートセンターを起爆剤にして順序良く進めればいいと思う。

○いい計画だと思うが、今回の説明会で大方の区民の意見が反対だったら仮基本合意書は白紙にする気はあるのか。

→・仮基本合意書は、双方とも白紙撤回する権利を有しており、今はその状態にある。基本協定を締結した後に撤回すると、補償の問題が発生してくる。

○住民の切実な思いが絵空事のように回答されている。跡地問題は区民投票をさせる位のことを考えてほしい。アンケートも300件足らずで、もっと区民の意見をくみ上げてから実行してほしい。もう少し考えてほしい。

○金銭的なことは言わない方がいい。小川広場など空き地を処分すれば費用は十分出てくると思う。

○KKRは4月に港区の土地を売却した。九段坂病院が移転した後KKRが土地をどこに売ろうが関係ないということか。

→・九段坂病院を併設するプランを推進するにあたって、大きな団体である共済組合の土地取引に区が関与するつもりはないが、九段坂病院を旧庁舎に併設することに関しては、区の考えている機能、地域への貢献をきちんとやってもらうために契約や協定を締結する上で担保していく。

・200人以上の待機者がいることは認識しているし、施設のニーズがあることも承知している。これから高齢者が増えること、区の財政規模もあるし、自分で住んできた家で最後まで過ごしたいことという思いを考え少しでも区民の皆さんの安心を支える施設、仕組みを作っていきたいと思っている。できるだけ在宅でも安心して過ごしてもらえらる仕組みを作っていくことが必要だと思っている。施設の充実の一方で在宅でもできるだけ支援できる仕組みを作っていくことが必要という考え方から提案している。アンケート数が少ないとの意見もあるが、世論調査の結果などトータルな意見の中で構想しているし、区議会にも考えを説明し議論いただきながら積み上げてきている。

○今回の区の計画は、いま区に最も欠けているものを作ってくれるので大賛成である。民生委員を長年務めた経験から、一番困ったのは高齢者のみの世帯での緊急時の対応であった。緊急避難的に預けられるところは必要である。透明でないというのはやり方の問題であり、オープンにできるところはオープンにしていけばいいと思う。特養をはじめ、高齢者の施設に関して様々な要望があることと区として受け止めて欲しいが、旧庁舎跡地を活用する今回の計画で何も

かも対応できるはずはない。特別養護老人ホームなどは別の場所に作ってほしい。

→・区全体の施設整備は今年度保健福祉総合計画を策定する。昨年策定した改定基本計画の中にも述べられている。プロセスも含めて別途説明し、ご意見をいただくことになると思う。

○この計画に反対しているのではなく、むしろ今まで旧庁舎跡地の活用計画を作ってこなかったことが問題だと思う。なぜ九段坂病院なのかが問題である。なぜ突然旧庁舎跡地に九段坂病院なのか。プロセスがおかしい。内容は吟味するが賛成はしている。

○区民病院なのか。ネーミングはどうなるのか。

→・名前についてはKKRに投げかけている。一般的に市民病院というと、自治体が丸抱えで運営するイメージ。今回はKKRが運営主体となり、そういう中で区民のためいろいろな貢献をしてもらうことになるので、区民病院というような名前にはならなさそうである。

(15:48 終了)